

上園登志子著「ガハハおばさんの直感随想録」

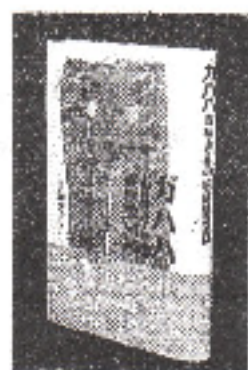
## 平成の「細腕繁盛記」

地方の本

著者は鹿児島で32年続く郷土雑誌「随筆かごしま」の代表で「ガハハおばさん」の異名を持つ。本書は「ガハハおばさんの『遠吠え』

『花も嵐も』『インタビュー』『編集語録』の4部構成。

「六十歳を過ぎた。これまで家庭内はともかく、世間には思ったことを言うとか書くとかするのを憚っ



てきた」という一文で始まる「遠吠え」では、政治経済などの世相に文字通り吠えまくる。第2章「花も嵐も」は「長兄の放蕩三昧で、

一家の運命は嵐の海の小舟のように激変。長姉・次兄・三兄と家を出て行き、残った老父と妹を守るべく、十七歳になった私は長兄と生傷の絶えない争いを繰り返していた」とあり、戦争、生家の没落、亡兄・夫との壮絶な戦いの日々など、波乱万丈の半生が綴られてい

る。第3章は雑誌掲載のインタビュー記事、第4章は雑誌の編集後記の抜粋。地方出版の灯を絶やすことなく、「鹿児島だからこそ」にこだわり続ける、平成の「細腕繁盛記」だ。

(燦葉出版社)東京都中央区日本橋本町4の2の11・1575円)